

水戸ホーリーホックの観戦者に関する研究  
-観客動員に影響を及ぼす要因に着目して-

齋藤 優 修士 (ビジネス)

山門 弘直 修士 (ビジネス)

梁 彬 修士 (ビジネス)

齋藤 龍 修士 (ビジネス)

(経営・政策科学専攻)

指導教員 生稲 史彦

2013年3月

筑波大学大学院博士課程  
システム情報工学研究科特定課題研究報告書

水戸ホーリーホックの観戦者に関する研究  
-観客動員に影響を及ぼす要因に着目して-

201120570	齋藤 優	修士 (ビジネス)
201120582	山門 弘直	修士 (ビジネス)
201120620	梁 彬	修士 (ビジネス)
201020584	齋藤 龍	修士 (ビジネス)

(経営・政策科学専攻)

指導教員 生稻 史彦

2013年3月

---

Research about spectators of Mito Hollyhock

-By focusing on the factors that influence the attendance-

## 報告書要旨

本研究の目的は、プロサッカーチームである水戸ホーリーホックの観客動員数増加に資する提言をすることである。アンケート調査の分析結果からいくつかの提案を行った。

序章では、水戸ホーリーホックについて、観客動員の重要性、また考えられる観客動員の増加要因の中で本研究が滞留空間の満足度、会話による交流の満足度、ホームタウン活動の認知、サッカー教室の評価について焦点を当てた背景について述べている。そして各章の全体像を示す。

第2章では観戦者数増加を目的として、滞留空間という試合観戦以外の空間に着目して研究を行った。観戦者の滞留空間を構成する要素に関する満足度を調査し、その満足度と観戦回数に関係が認められるのか分析した。スタジアムの「グッズショップ」「キックターゲット」「サイン会」「駐車場」を改善すべきであるという結論に至った。

第3章では、スタジアムでの交流が観戦回数に与える影響を明らかにすることを目的とする。アンケート調査から、交流対象者別および会話の話題と観戦回数との関係を検証した。第一回調査のデータでは売店スタッフとフロントスタッフ、第二回調査のデータでは売店スタッフとフロントスタッフとの交流の満足度と観戦回数に関係があることが示唆された。またサッカーに関する会話と相手と親密になる会話の両方に満足している場合、観戦回数に影響を与える可能性が示唆された。

第4章では、サッカー教室活動はチームアイデンティフィケーションと観戦意図に与える影響を明らかにすることを目的とする。サッカー教室の参加者と保護者を対象として、アンケート調査を行った。サッカー教室への評価は観戦意図に対して正の影響を与えることが分かった。また、サッカー教室への評価はチームアイデンティフィケーションに正の影響を与えるということも同時に明らかにされた。

第5章では、ホームタウン活動を地域住民が認知することが観戦意図に与える影響を明らかにすることを目的とする。結果はホームタウン活動の認知は、チームロイヤリティを通じ観戦意図へ影響を及ぼすことを示し、ホームタウン活動の認知は観戦意図へ影響を及ぼすことを示した。「小・中学校、養護施設への訪問活動」、「選手・スタッフによる講演会」、「病院・福祉施設への訪問活動」、「サッカー教室の開催」のホームタウン活動の認知を高めることは、観戦意図を高めることに繋がる。

終章では、各章の結論をまとめた。また全体として観客動員の増加に対する提案を述べる。

## Summary of the research

Purpose of this research is promoting the audiences quantum of the professional soccer team-“Mito Hollyhock”. From the result of the questionnaire, we summarize some suggestions. In the first chapter, we focus on the importance of attendance for Mito Holleyhock. The factors which affect the attendance intention are “the satisfaction of surrounding space”, “the satisfaction of interaction”, “the recognize of hometown activities” and “the evaluation of soccer classroom”. And at last, the overall relationship has been summarized in one picture.

In chapter 2, a study focusing on the surrounding space other than space of watching game has been concluded. Satisfaction surveys on the elements of surrounding space have been done. In this chapter, improve the "goods shop", "kick target" "sign session" "parking" of the stadium have been concluded.

In chapter 3, the effect of interaction in the stadium of Mito Hollyhock on the intention of spectators to attend the game has been clarified. From the questionnaire survey data, the relationship between satisfaction of interaction target and the frequency of attending the game have been examined. And the relationship between satisfaction of interaction topic and the frequency of attending the game also have been examined. From the first and second questionnaire survey data, the relationship between satisfaction of interaction with front staff, shop staff and the frequency of attending the game have been clarified. The satisfaction of interaction topic which about soccer and the topic which could make each other intimate also affect the frequency of attending the game. From the analysis result, we could take good measures in order to prove interaction in stadium.

In chapter 4, the factors on the intention of soccer classroom spectators to attend games have been found. The questionnaire survey has been conducted for the participants or parents. The result of survey shows that “The evaluation of soccer classroom” positively affect “The Team Identification”, and “The Evaluation of Soccer Classroom” also positively affect “the attendance intention”.

Chapter 5 aims at clarifying that local residents` recognize of hometown activities affect the attendance intention. As a result, local residents` recognize of hometown activities affect the attendance intention through “Team loyalty” have been conducted. Moreover, the recognize of hometown activities of "visiting activities to elementary and junior high schools and a nursing institution", "the lecture meeting by player or staff", "visiting activities to a hospital and welfare facilities", and "soccer classroom" are related to the attendance intention.

In the last chapter, we summarize the conclusions of each chapter, and summarize the suggestions of improvement the attendance intention overall.

# 目次

## 序論

1.1	本研究の背景.....	2
1.1.1	水戸ホーリーホックについて.....	2
1.1.2	観客動員数について.....	3
1.2	目的.....	4
1.2.1	観客動員の重要性.....	4
1.2.2	本研究の焦点.....	6
1.3	アンケート調査について.....	7
1.3.1	スタジアムアンケート調査.....	7
1.3.2	サッカー教室でのアンケート調査.....	8
1.3.3	イオンモール水戸内原店でのアンケート調査.....	8
	参考文献.....	8
第2章	滞留空間の満足度と観戦回数に関する研究	
2.1	序論.....	12
2.1.1	研究背景.....	12
2.1.2	研究目的.....	12
2.1.3	本章の構成.....	13
2.2	研究方法.....	13
2.2.1	仮説設定の先行研究.....	13
2.2.2	本研究の仮説.....	13
2.2.3	アンケート調査票の作成方法.....	14
2.2.4	アンケート調査の実施方法.....	15
2.2.5	データセット.....	15
2.2.6	変数の作成.....	15
2.3	分析方法.....	16
2.4	分析結果.....	18
2.4.1	分析 1-1 結果.....	18
2.4.2	分析 1-2 結果.....	19
2.4.3	分析 1 の結果.....	20

2.4.4	分析 2 の結果.....	22
2.5	考察.....	23
2.6	結論.....	24
2.6.1	本研究の結論.....	24
2.6.2	提案.....	25
2.6.3	本研究の課題.....	25
	参考文献.....	26
第 3 章 会話による交流と観戦回数に関する研究		
3.1	序論.....	29
3.1.1	研究背景.....	29
3.1.2	目的.....	32
3.1.3	報告書構成.....	32
3.2	先行研究・仮説設定.....	32
3.2.1	先行研究.....	32
3.2.2	基礎仮説.....	33
3.3	分析方法.....	34
3.3.1	調査項目.....	34
3.3.2	分析方法.....	34
3.4	分析結果.....	35
3.4.1	単純集計.....	35
3.4.2	クロス表分析.....	36
3.4.3	重回帰分析.....	38
3.5	考察・提案.....	39
3.5.1	単純集計結果に対する考察.....	39
3.5.2	クロス表分析結果に対する考察.....	39
3.5.3	重回帰結果に対する考察.....	40
3.5.4	提案.....	40
3.5.5	今後の課題.....	41
	参考文献.....	42



## 第4章 サッカー教室の効果に関する研究

4.1	序論.....	45
4.1.1	研究背景.....	45
4.2	目的.....	45
4.3	報告書構成.....	45
4.4	先行研究と仮説.....	46
4.4.1	先行研究.....	46
4.4.2	基本仮説.....	46
4.5	研究方法.....	47
4.5.1	調査項目.....	47
4.5.2	分析方法.....	48
4.6	分析結果.....	48
4.6.1	カイ二乗検定.....	48
4.6.2	因子分析.....	49
4.6.3	ロジスティック回帰分析.....	50
4.6.4	共分散構造分析.....	51
4.7	考察.....	53
4.8	結論.....	55
4.8.1	本研究の結論.....	55
4.8.2	提案.....	55
4.8.3	今後の課題.....	56
	参考文献.....	56

## 第5章 ホームタウン活動が地域住民に与える影響について

5.1	序論.....	60
5.1.1	研究背景.....	60
5.1.2	研究動機.....	60
5.1.3	研究目的.....	61
5.1.4	論文構成.....	61
5.2	本論.....	61
5.2.1	先行研究.....	61

5.2.2	仮説設定.....	62
5.2.3	各用語の定義.....	63
5.2.4	質問紙の構成.....	63
5.2.5	分析方法.....	64
5.2.6	調査方法.....	64
5.3	分析結果.....	65
5.3.1	基本属性.....	65
5.3.2	因子分析.....	65
5.3.3	共分散構造分析.....	67
5.4	考察.....	69
5.5	結論.....	70
5.5.1	得られた結果.....	70
5.5.2	提案.....	70
5.5.3	本研究の限界と今後の課題.....	71
	参考文献.....	72
終章		
6.1	本研究の概要.....	75
6.2	各章の結論.....	75
6.2.1	第2章の結論.....	75
6.2.2	第3章の結論.....	75
6.2.3	第4章の結論.....	76
6.2.4	第5章の結論.....	76
6.3	本研究からの提案.....	76
6.3.1	マスコットキャラクターの改善.....	77
6.3.2	ホーリーパークの創出.....	79
6.3.3	グッズの改善提案.....	80
6.3.4	ホームタウン活動について.....	81
6.3.5	大学とチームの連携強化.....	82
6.4	本研究の課題.....	84
	参考文献.....	85

謝辭.....	86
付録.....	87

## 図目次

図 1-1	年間平均入場者数の推移.....	3
図 1-2	観戦頻度と年間試合数の推移.....	4
図 1-3	水戸ホーリーホック・J1・J2 の営業収入額.....	5
図 1-4	水戸ホーリーホック・J1・J2 の営業収入構成割合.....	5
図 1-5	本研究の全体像.....	7
図 2-1	仮説モデル.....	14
図 2-2	ポートフォリオ図.....	17
図 2-3	データ 1 満足度割合.....	19
図 2-4	観戦回数への満足度と滞留空間の要素の満足度とのポートフォリオ図.....	22
図 3-1	単独観戦者の割合の推移.....	31
図 3-2	同伴者属性の割合.....	35
図 3-3	同伴者人数の割合.....	36
図 3-4	14 日売店スタッフ度数分布表.....	37
図 3-5	14 日フロントスタッフ度数分布表.....	37
図 3-6	30 日同伴者度数分布表.....	38
図 3-7	30 日売店スタッフ度数分布表.....	38
図 4-1	サッカー教室の仮説関係図.....	47
図 4-2	共分散構造パス図.....	51
図 5-1	本研究の仮説モデル.....	63
図 5-2	分析対象となるサンプルの基本属性.....	65
図 5-3	修正後の仮説モデル.....	67
図 5-4	仮説モデルの共分散構造分析結果.....	67
図 5-5	修正を加えた仮説モデルの共分散構造分析の結果.....	68
図 6-1	ホーリーくんプロフィール.....	78

## 表目次

表 2-1	クロス表とフィッシャーの直接確率検定.....	18
表 3-1	ホテルとプロスポーツにおける製品レベル.....	31
表 3-2	各交流対象ごとの回答数と割合.....	36
表 3-3	14日各交流対象の観戦頻度、交流満足度クロス表.....	37
表 3-4	30日各交流対象の観戦頻度、交流満足度クロス表.....	38
表 3-5	重回帰分析結果.....	39
表 4-1	イオンと教室のT I と観戦意図比較とカイ二乗検定結果.....	49
表 4-2	因子分析結果.....	50
表 4-3	独立変数間の相関性.....	50
表 4-4	ロジスティック分析結果.....	51
表 4-5	共分散構造パス図とモデルの評価.....	52
表 4-6	クロス集計表.....	54
表 5-1	アンケートの概要.....	65
表 5-2	探索的因子分析の結果と各因子の累積寄与率とアルファ係数.....	66
表 5-3	ホームタウン活動認知因子と因子構成する観測変数の関係.....	70
表 6-1	グッズ使用と観戦意欲のカイ 2 乗検定.....	82